



かるがも

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo>

2024 年〈令和 6 年〉 3 月



新春のご挨拶

病院長 中島 弘道

立春を迎えましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

本年は正月早々に能登半島で大きな地震がありました。犠牲となられた方々のご冥福を祈ると共に、被災者およびそのご家族の皆様には心からお見舞い申し上げます。

改めて災害対策の大切さを痛感いたします。当院は災害対策拠点病院ではありませんが、多くの医療的ケア児が千葉県全域から通院しています。そのような皆さんの災害時の対応などに関して、隣接する千葉リハビリテーションセンターと共に、各地区の行政や施設とも協力する形で対策を進めており、これからも取り組んでまいります。災害だけでなく、気候変動、そして物価高や貧困増加、少子化などの困難がある社会の中で、小児医療もまた厳しい状況であり、小児医療の収支は赤字化しており、県内病院小児科の維持も簡単ではありません。今年は6月に診療報酬の大改訂があります。また当院では8年ぶりの電子カルテシステムの更新も予定しております。それらに適切に対応し、医療安全も含めた医療の質の向上に務めながら、収支改善に務めていきます。



多くの課題がある一方、少しずつ良いことも増えております。2022年に制定された「こども基本法」では、全てのこどもの社会活動への参画機会確保とこどもの意見尊重が定められ、政策をつくる際にもこどもの意見を反映することが「義務」となりました。昨年よりこども家庭庁が発足し「こども真ん中」をスローガンに様々な政策を進めつつあります。それとともに育児休暇の一層の充実と取得の促進など、こどもと家族にとって大切な種々の政策がすでに実行されています。このようにこどもを大切に社会へと世の中が変わりつつあることを感じます。私たちもこれからの社会の変革に遅れをとることなく、こどもたちのために動んでいきたいと思っております。これからもご支援の程どうぞよろしくお願いいたします。

こども病院に赴任して20年、最近思うこと

診療部長 角田 治美

2021年度より診療部長の役職を仰せつかっている血液腫瘍科の角田治美です。令和6年があけ、コロナ禍の状況は以前に比べかなり改善し、面会制限、病院イベントの開催、ボランティアの活動などが少しずつ緩和され、コロナ禍前の状況に戻つつあります。しかし年末のインフルエンザの流行、依然散発的に発生するコロナ患者など、周囲の環境はまだまだ安全とはいえません。当院では、感染対策チーム、病床管理室がその力を発揮し病院運営に大きな役割を担ってくれています。今後もその活躍が期待できます。



話しは替わりますが、私は診療部長の仕事として特に倫理審査委員長の職務を受け持っており、臨床研究の審査はもちろんですが個々の症例の治療方針相談等も受け付けています。数年前まで倫理審査の案件は殆ど医師からでしたが、最近は看護師、検査技師、放射線技師、リハビリ、栄養士、心理判定士、CLSなどと多職種に及んでいます。さらに私は、症例についての多職種カンファレンスにも呼ばれることが多くなりました。最近感じていることは、その席でのコメディカルからの発言が多くなり（以前は医師だけが発言する傾向でした。）、一人の症例に対して、多くの職員が積極的に関わろうとする姿勢がでてきています。

最後に個人的な話に触れますが、私のこども病院採用時は以前から知り合いの先生が多かった（同じ部活の出身者が多かった）ので、新しい環境にすぐ慣れることが出来ました（以前の医局は重厚な雰囲気があり、若い先生は慣れるのが大変だったかもしれません。私の印象です。）。現在のこども病院は、そのような既知の人間関係がなくても、職員同士気兼ねなく意見を出し合える場があり、年齢、職種、診療科などの垣根を超えた職場となっており、職員間の人間関係は良好です。そして今後もそうあり続けて欲しいと願っています。

歯 科

千葉県こども病院歯科は、全身的な疾患や心身に障害をもつこども達のお口の健康を育成し、守る診療科…ではありません。近くの歯医者さんで何度も練習して、いざ治療になると体が動いてしまって上手に治療が受けられない…そんなこども達のお口の健康も守る診療科です。お口の疾患には、むし歯、歯肉炎、口腔粘膜炎などよく知られているものから過剰な歯の埋伏、短い舌小帯、唾液の流出障害による粘液のう胞など手術が必要なもの、さらに摂食機能の障害など多岐に及びます。幼児から学童期にかけては成長発育が盛んな時期です。食物をよく噛むことにより栄養を十分に摂取できるようになり、口の周り、顎の周りの筋肉の発育を促し、全身の健康を作っていきます。また、乳歯の萌出により正しい舌の位置を覚え上手に発音・構音できるようになります。萌出した乳歯は後継する永久歯を正しい位置に萌出できるよう誘導してくれます。このような大切な時期における口腔疾患の治療は、お子さんが乗り越えるには大きなハードルになることが多く治療に際して特別な配慮が必要になります。当科では、こども達の心身の状態に応じて、多くの診療科と連携しながら、治療に取り組んでいます。唇顎口蓋裂のこども達には他科の先生たちと口蓋裂治療チームを作り、Hotz床の製作や口腔衛生指導を行っています。齲蝕や歯肉炎の治療だけでなく、転倒転落などによる口腔の外傷や、顎骨あるいは軟部組織に生じた嚢胞や腫瘍といった口腔外科疾患にも対応しています。また、さまざまな理由から通常の外來通院下での歯科治療が受けられないお子さんに対しては、全身麻酔下での集中歯科治療もおこないます。入院中のこども達に対するの口腔ケアラウンドも病棟スタッフと協力しながら行っております。お口の健康は全身の健康に大きく影響します。不安なことがありましたらいつでも病院スタッフにお声掛けください。

- 1 氏名 2 出身地 3 こども病院の好きなところ
- 4 医者になってなかったら？ 5 ストレス解消法
- 6 休日の過ごし方



- 1 渡邊 俊英(わたなべ としひで)
- 2 神奈川県横須賀市
- 3 静かなところ
- 4 ものを作る人
- 5 おさんぽ
- 6 気が付くと休日が終わっているのです。



アレルギー・膠原病科

皆さん、こんにちは。アレルギー・膠原病科です。

当科では、「免疫」の異常によって起こる病気を診療しています。「免疫」は本来自分自身を守るために生物が発達させてきたからだのシステムです。このシステムに何らかの原因で狂いが生じると、からだにとって都合の悪いことが起こります。「免疫」のシステムが十分に働かず、菌やウイルスに負けてしまう病気(免疫不全症)、「免疫」のシステムが暴走して「炎症」が止まらなくなる病気(自己炎症性疾患)、自分自身のからだを攻撃する病気(自己免疫疾患)、特定の物質に対して過剰に反応する病気(アレルギー疾患)が、対象となる病気です。膠原病は、自己免疫疾患の中で全身のいろいろなところに症状が出る病気を指します。

これらの病気は、それぞれ治療法がかなり異なります。診断も比較的わかりやすいものから、何年にもわたって診断が確定しない病気もあります。詳しくお話を聞いて、必要な検査を行って診断と病態を考え、その人の病状に応じた治療を組み立てます。

お薬のこと、日常生活の注意点など、いろいろご心配なことがあると思います。受診時に遠慮なく相談してください。

- 1 氏名 2 出身地 3 こども病院の好きなところ
- 4 医者になってなかったら? 5 ストレス解消法
- 6 休日の過ごし方



- 1 富板 美奈子(とみいた みなこ)
- 2 愛知県
- 3 他の科の先生に相談がしやすいところ
- 4 歴史や古典文学の研究
- 5 カラオケで YAH YAH YAH を熱唱する
- 6 DVD やテレビを観る



- 1 光永 可奈子(みつなが かなこ)
- 2 千葉県
- 3 色々な働き方を選択できる場所
- 4 学校の先生
- 5 カフェでゆっくりする
- 6 家の掃除や整理整頓



- 1 加藤 大吾(かとう だいご)
- 2 埼玉県
- 3 子どものために一致団結
- 4 数学教師
- 5 ひとまず寝る
- 6 掃除、ネットサーフィン、子どもと遊ぶ



- 1 佐藤 義剛(さとう よしたけ)
- 2 東京都
- 3 あたたかい雰囲気
- 4 料理人が教師
- 5 こどもと遊びに行く
料理、ワイン、ウイスキー
- 6 こどもと遊びに行く



医療安全管理室

のご紹介



医療安全管理室とは

千葉県こども病院では、職員目標の第一に「こどもの生命(いのち)と安全を第一に」を掲げ、一般病院では難しい特殊疾患や重症患者に対する診断や治療を行っています。医療安全管理室は、安全な医療を提供できるよう病院全体の医療安全管理の業務を統括する部門です。医師2名(室長、室長補佐)、看護師3名(医療安全管理者、医療安全管理室看護師長、褥瘡管理者)、事務職員1名で構成されています。

医療安全管理室の仕事

こどもにとって安全で安心できる環境を整えるために、病院内のパトロールや、医療安全対策に係るマニュアルの作成・管理、医療安全に係る会議や多職種カンファレンスの開催、職員に向けた医療安全研修などを行っています。また、病院内で発生した患者安全に関わる出来事報告(インシデント・アクシデント報告)を職員から集め、発生時の対応状況の確認、原因究明と対策の立案、対策の適切性を確認するなどしています。医療安全管理室ではこの出来事報告を「お宝」と呼んでいます。職員からどんな小さな出来事でも報告していただけるよう「報告してくれてありがとう」を合言葉に日々活動しています。

多職種カンファレンス



医療安全パトロール



TeamSTEPPS 研修



今年度から全職員研修にしました！

TeamSTEPPS とは？

Team Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety

米国の医療研究・品質調査機構が、医療のパフォーマンス向上と患者の安全を高めるために開発したツールです。チームワークの重要性とノンテクニカルスキルの実践能力を身につけるための手法を多職種が集まって学びます。

患者相談窓口のご案内

千葉県こども病院では、専用窓口を設けて患者さんやご家族からのご相談をお受けしております。医療に関するご相談や不安や悩みなども、お気軽にお声かけください。

相談受付時間 月～金 午前9時～午後5時

秘密は保持します

新生児集中ケア認定看護師

新生児集中ケア認定看護師は、新生児集中治療室（NICU）に入院した早産・低出生体重児や病気で治療が必要な赤ちゃんの看護を行っています。赤ちゃんの胎外環境への適応を助け、呼吸・循環を安定させ、成長発達を促すケアや、赤ちゃんの様々なサインを読み取り、個々に合わせた安楽なケア、そして治療の身体的ストレスを少しでも和らげる体位の工夫や、処置時の痛みを緩和するケアなどを行っています。

ご両親は、赤ちゃんが産まれたことの喜びと共に、予定より早く生まれたことや病気の治療が必要なことを知り、戸惑いや緊張、将来に対する漠然とした不安を感じられているかもしれません。そのような時には、ご両親に静かに語りかけ、気持ちを聴きながら赤ちゃんに優しく触れる方法を伝え、一緒にケアを行います。また、細やかな観察で赤ちゃんのサインを読み取り、何を訴えているかを伝え、赤ちゃんのご両親が、早い段階で一緒に過ごすことを大切にしています。



澤田 里恵

赤ちゃんとの関わり方のポイント

赤ちゃんのサインの1つである睡眠・覚醒状態(ステイト)は、6段階あります。



ステイト1～2は、成長する大切な時間のため、自分で動いてお布団の隅っこで眠っていても安全であれば見守ってあげることが大切です。ステイト3～4の時は赤ちゃんとのコミュニケーションが取りやすいタイミングです。体に触れたり、ご両親の指を握らせてあげたり、語りかけるとじっと見つめ返したりします。

触れること(タッチ)と採血などの痛み刺激の区別がつくのが35週以降と言われており、早く生まれた赤ちゃんは、本来は気持ちが良いと感じるタッチでも、体動が落ち着かなくなり、痛み刺激を受けた時と同じような反応を示すことがあります。眠っている赤ちゃんは可愛らしく、頬は柔らかそうで、つい、ツンツンと指で触れたいくなりますが、温めた両手で包み込むようにゆっくりと体に触れること(ホールディング)で赤ちゃんは穏やかに過ごすことができます。ご両親のホールディングは、唾液の吸引が必要な時などの痛みの緩和にもつながります。

赤ちゃんは、ご両親の声を聴き、お母さんの母乳の臭いを感じ安心します。特に母乳は栄養や消化に優れ、感染予防や鎮痛作用もあることがわかっています。口から母乳を飲むことができない赤ちゃんには、母乳を綿棒に浸して口の中に塗布します。保育器に入っていたり、呼吸器や点滴などの集中治療を受けていたりする赤ちゃんであっても、ご両親と触れ合えるよう、医師や看護師で考え、ご両親ができるケアを一緒に行うようにしています。そのほか、入院初期から退院後の生活を考えて、多職種と協力し、情報共有しながらご両親の育児技術の習得支援や、社会的支援の準備をすすめています。

赤ちゃん自身が持つ成長・発達する力、赤ちゃんのご両親が家族として成長し生活できる力を引き出し、支援していくことがNICUの役割と考えています。



GERMANY

ドイツ留学記

第2回

海老原知博

 [Institute of Neurogenomics, Helmholtz Zentrum München]
 (前職: 千葉県こども病院 新生児科)

皆さん、ご無沙汰しております。ドイツ、ミュンヘンに留学中の海老原です。前回の投稿から月日は流れ、ミュンヘンでもオクトーバーフェストやクリスマスマーケットといった大きなイベントが終わりました。日本でも模倣されて人気の両イベントですが、日本とは大きく異なるなと思った点を今回は共有させて頂こうと思います。1つ目は、併設されているアトラクションが多く、さながら遊園地のようなことです。オクトーバーフェストでは、1Lジョッキのビールを飲んだ後に、フリーフォールやジェットコースター、様々なギミックのある迷路などを老若男女みんな楽しめます。私もAutoscooterというバンパー付きの小さい車をぶつけ合うアトラクションでボスの横に乗せられ、飲酒運転に付き合っていました。(ドイツの法律的に問題はなく、安全処置は十分になされています。)迷路では酔っぱらいが楽しそうに徘徊している様子が外からも見て取れました。クリスマスマーケットになると少し厳かにはなりますが、観覧車やメリーゴーランドなどを子供達が楽しめます。ドイツの観覧車は1周で終わりではなく、日本よりはるかに高速で何周もするものが多いです。乗り降りの時は一旦完全に止まってから交代するので、止まった時にてっぺんにいるとお得感がありました。2つ目は、大人やカップルだけでなく、子供とお年寄りの参加率が非常に高いということです。オクトーバーフェストではビールを飲む親の横で子供達がジュース片手にチキンやプレッツェルを楽しみながら、何のアトラクションに乗るか相談している光景がよく見られます。クリスマスマーケットでは夜は氷点下になることも多いですが、孫とおじいちゃんおばあちゃんが日が暮れても談笑していることが多いです。とても微笑ましく、ドイツ文化に触れているなと実感できた瞬間でした。



オクトーバーフェストのアルバイトは高額で人気があるようですが、1人でこれだけのビールを運ぶのは相当大変そうです。女性なのに凄い(写真はtogetter.comより引用)



CHIBA CHILDREN'S HOSPITAL

千葉県こども病院

〒266-0007 千葉県千葉市緑区辺田町 579-1 TEL.043-292-2111 FAX.043-292-3815

